





## ~ 異端児から世界標準へ ~ 1994 年 NOKO はロードバイクの世界に革命を起した。

位置、サドル位置、ハンドル位置を基準にした新しいボジションフィッティング理論を提唱。ペダル(クリート)、サドル、ハンドルの3点ポイントが基準となり、そのポイントにフレームを当てはめる方式を採用する為にあえ て Seat-Tube 長を無視した結果、 Seat-Tube を極端に短くした「コンパクトスタイル」のフレームが誕生した。 開発当初、 ロードバイクは伝統的なホリゾンタル(Top-Tube 水平)形状が主流であった為に、 突如 現れた独創的で見慣れないフレーム形状にサイクリスト達は拒否反応や否定的な意見が多かった。 既存のサイクリスト達は保守的でなかなか新しいスタイルを受け入れることが出来なかった。 まさに NOKO はロードバイク における「異端児」だった。更に軽量アルミチューブを TIG 溶接する工法をいち早くロードバイクに取り入れた事も NOKO が奇異なる存在となる理由となったのだが、既存のクロモリスチールフレームとは比較にならない程 の大幅な軽量化と剛性アップを実現する事に成功した。ロードバイクの本来の目的である「レースに勝つ為の機材」として開発されたそのフレームは「NOKO・ALUMINO」と命名された。

「異端児」であった「NOKO・ALUMINO」を最初に評価したのは勝負にこだわる一流選手達であった。 合理的で効率的な新しいポジションフィッティング理論と新素材 + 新工法を取り入れたフレームは、 これまでとは 異次元の走りを選手達に提供し、数多くのレースで勝利を獲得する。「NOKO・ALUMINO」と「コンパクトスタイル」は勝利と共に徐々に選手達に受け入れられた。

一方で NOKO が提唱した「コンパクトスタイル」のフレームは(我々とは違う考え方で)量産メーカーにも模倣された。 従来の Seat-Tube を基準にするサイズ合わせの場合、 どうしても細かいサイズを用意しなければな らなかったが、「コンパクトスタイル」は Seat-Tube 長を無視してフレームを作れるので大まかなサイズで生産する事が出来る。 しかもアルミの TIG 溶接は従来のクロモリのラグロウ付け工法よりも量産に向いていた。 量産メーカーが大幅な製造コストの削減と在庫リスクを軽減する事が可能になったという点も、 NOKO が自転車業界に起こした革命と言えるだろう。 量産メーカーが「コンパクトスタイル」を真似たフレーム形状をこぞって

## 研ぎ澄まされた日本刀のような鋭い走りで勝利をつかむ



## ALUMINO 20 周年記念モデル Shimano/ULTEGRA 完成車

● サイズ(適応目安身長) : S(160 ~ 165cm) M(170cm 前後) L(175cm 前後)

: Dedacciai FORCE-7003 アルミ ● フロントフォーク : ENVE ROAD-2.0 CARBON ● フレームカラー : 20周年記念特別カラー (画像参照)

Shimano/ULTEGRA (6800) フルセット (クランク長さ、ギヤ歯数指定可能)

● ホイール : 20周年記念オリジナル 30mm アルミクリンチャー ● タイヤ : Panaracer RACE-EVO Type-D 700x23C (SOYO 軽量ブチルチューブ)

● ハンドル : Deda RHM02 ● ステム : Deda ZERO-02(長さ指定可能) ● シートポスト : Deda RSX-02 ● サドル : Fizi,K ARIONE

台数限定販売 弊社希望小売価格 350,000 円 (税別/ペダル無い)

